
空に蒼の絵の具を

TAKUMI

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空に蒼の絵の具を

【Nコード】

N5153P

【作者名】

TAKUMI

【あらすじ】

世の中に絶望し、放浪生活を決心した中寫 恒彦の十年に渡る世界放浪。絵の具と画用紙、ギターと愛犬のjackを連れて旅に出る。 貧困、飢餓、紛争、政治、虐殺など世界は中寫の想像以上に混沌と化していた。だが、人々には常に笑顔があった。優しさがあった。 そんな人々の姿を中寫は形あるもの、形なきものに変え、帰国する。

この汚れた世界を

変えるために・・・。

青い神々(前書き)

人生初の小説です。時間に余裕のあるかた、どうぞ読んで行ってください。

青い神々

私は中畠 常彦。都内の小さな町工場に勤めている。

もう今年で三十二歳になる。結婚はしていない。嫁さんの代わりに一匹の犬がいる。だがこいつはオスだ。名前はjack。今年で五歳になった。私は絵が好きだ。子供の頃は山や海の絵をよく描いていた。もうひとつある。音楽だ。私は音楽が好きだ。父から受け継いだものだ。

家には古びたギターが一本ある。jackはこのギターの音色が好きなので、弾いてやるとすぐに寝てしまった。

裕福

ではないがそんなに家計が苦しい事もなく、普通に暮らしていた。

10月8日 午前6時30分 晴天 気温18

すっかり秋の空だった。とても過ごしやすい。

いつものように朝食を食べ、シャワーをして、jackに餌をやり、歯を磨き出勤した。

会社に着くと皆が私を見てい

た。何故か見ていた。

気の毒そうに・・・。

その時だった。

事務員の加藤さんが「社長が呼びです。」と、小声で言った。「

なんで？」と聞いてみた。加藤さんは僕を睨み、「いいから。」と僕の背中を押してきた。意味が分からなかった。

社長の部屋は以外に綺麗だった。美しいとかじゃなく、整頓されているということだ。

社長は「座りなさい」と言って促した。

僕も「失礼します。」とソファに腰

掛けた。僕はだらしなく辺りをキョロキ

ョロ見渡した。すると、本棚の一番上に

放浪生活開始まで、あと一週間。

青い神々（後書き）

どうだったでしょうか？「青い神々」は放浪生活の要因である

「世の中への絶望」を主体に書きあげました。

今回は「赤裸々」 投稿日は

未定。どうぞお楽しみに！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5153p/>

空に蒼の絵の具を

2010年12月15日20時55分発行